

高教組便り

前回に引き続き県立高等学校教育問題検討委員会の「答申」(十一月末発表)について報告します。(学区毎の再編・統廃合案)
 ※東部学区
 中高一貫校(安芸)
 総合専門高校
 (工、商、家)
 定時制の拠点校
 (昼・夜間併設の単位制)
 ※高知学区
 中高一貫校(高知南)
 専門高校の総合学科化
 全日・単位制高校の設置
 ※高吾学区
 総合学科(普、商、家)
 分校の統廃合
 ※幡多学区
 中高一貫校(中村)
 定時・通信制拠点校
 (単位制)
 総合学科(普、商)
 総合専門高校(農、商)など。

の数、その方々も含めて二十人近くいたように思いますが、結果はマスコミ報道の通りですが、各派の発言では三万人の署名の重みを評価しながらも「議会は充分審議をつくした」「市民への周知に不十分さが」「中心部に公立病院がなくなることに對する市民の不安解消への今後の努力を」との立場で、審議会の設置はなりませんでした。
 唯一設置に賛成の立場の下元文雄(共)議員は、各方面へ配慮の行き届いた、なかなか練られた質問でした。
 九月に、市長が突然打ち出した「あんしん健康センター」設置、「既存の高知地域保健推進協議会でこれから論議を」など、運動の部分的な成果はあった感じが、今後更に市民参加で改善の運動を進めていく必要を強く感じました。
 (窪田一郎)

相撲三三知識 四十一

林 勤

大相撲を支える人々 (15)

相撲博物館

両国国技館正面一階に相撲博物館がある。一階は事務室、展示室、書庫など二九五㎡、地下一階は収蔵庫調査室など一九六㎡である。収蔵品は、錦絵、相撲風俗絵巻、宝暦よりの番付、明治以降の星取表……など二万点を超えており、谷風の横綱免許状、常陸山のシルクハット、栃木山と双葉山の化粧廻しと書などもある。

二カ月毎にテーマを替えて展示している。現在、職員は館長代理と学芸員四人である。
 さて、私は、何時からどういうきつかけでか、定かな記憶はないが、ずい分お世話になってる。相撲のことを書く場合にはいろいろと事前に調べてはいるが書き上げていく中に、どうしても調べたいことが急に出てくることもある。その時は勿論電話問い合わせであるが、知りたいことがすぐに教えていただけると、ありがたいと同時に流石と感心させられる。

以前、高退協会員で音訳ボランティアをしておられる平井楠子先生から「はだかの小錦」という本の中の力士名の読み方を問うてこられた。十両以上はわかっていたが幕下以下は知らなかった。相撲博物館を紹介して平井先生に直接聞いていただいたことである。
 また、県立図書館から「中村市立図書館から相撲甚句の問い合わせがあったが、何か資料はないだろうか」と聞かれた。私の資料には七首しかないのですが、相撲博物館へお願いとすると、呼出し永男(のりお)の福田永昌著「相撲甚句」のコピー(四十一首)を早速送って下さった。お陰で利用者に対し、図書館の面目がたつた。

高退協活動日誌

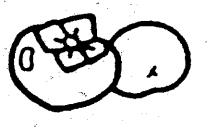
【9月】

- 14日 県教研実行委員会 (高知城ホール)
- 16日 石元・野村先生によるILO報告集会 (城ホール)
- 19日 九月度事務局会 成瀬先生の通夜
- 20日 勤評を偲ぶ会実行委員会 (城ホール)
- 26日 二千年ピースウェーブ反省会(草の家)
- 28日 直接請求署名運動中間報告集会(中央公民館)
- 29日 全退教四プロ事務局会(川之江市)



【10月】

- 1日 第14回日本高齢者大会(横浜市)
- 16日 市議会臨時会傍聴
- 17日 10月度事務局会
- 18日 11・3憲法集会の実行委員会(城ホール)
- 20日 四プロ学習交流集会(土佐市国民宿舎「土佐」)
- 21日 県高齢者集会(旭・ソール)
- 27日 日朝友好協会の学習会(城ホール)



【11月】

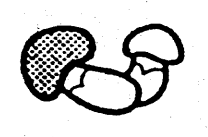
- 1日 開かれた学校全国集会実行委員会(城ホール)
- 3日 11・3憲法集会(市役所前)
- 7・8日 研修旅行(奈良県)

公立病院問題の

臨時市議会の一日

十月一六日、市議会に大勢の傍聴者が詰めかけました。七六の本会議の傍聴席には入りきらず、委員会室での「音声傍聴」の方も多数、受付人数は約一三〇名というものでした。
 高退協メンバーも受任者になって、酷暑の中、署名集めに頑張った人もかなり

相撲博物館は「相撲資料を収集、保管し、一般の閲覧に供すると共に、相撲の歴史的研究調査を行っています」とあるが、私達程度からマスコミ関係者、相撲図書出版者に至るまで、あらゆる相撲関係者にとってなくてはならない博物館であり、大相撲を資料面から支え、大相撲発展に大きな役割を果している。
 (次回は相撲診療所、相撲サーピス会社について述べます)



『老・眼・鏡』

「北見開拓物語」

西込 曠



今年の始め、市の総務課の国際平和係の畑中さんから姉妹都市北見市から日本棋院北見支部の一行が来るので対応してもらえないかという話があった。その時もらったのが「北見開拓物語」である。著者の片岡健次氏（一九一二年—一九九六年）は高知市・北見市姉妹都市委員会の二代目会長で清水建設を退職後、大旺建設の相談役をつとめておられた。「文筆家でもなく、文才があるわけでもなく単なる技術者（建築家）」と謙遜されるがなかなかの力作である。全一九八ページの約三分の一が付録の「北海道の生い立ち」と「高知今昔物語り」。専門が私の知識のもっとも希薄な部分であったので何もかも新鮮であった。それまではまるで外国のように遠かった北海道が急に身近に感じられるようになったのが何よりもうれしかった。高知県、とりわけ高知市のことになるとなんと知らないことの多いことか。例えば「三〇〇年の伝統ある」としか知らない日曜市は、起源は一六九

〇年といわれているが最初は現在の電車通りで開かれていて、その後帯屋町に移ったが商店街と重なるので再び移転。安いという魅力のほかに農家の現金収入になるため生産意欲も高まったとある。二転三転して今の追手筋に定着したのは明治三十七年のこと。

さてそれまではアイヌの三家族しか住んでいなかった。た広大なクネッブ原野に足を踏み入れたのは坂本直寛を社長とする北光社の入殖団の一行で、一八九七年のこと。「北に光を、北海道に光明を見出だそう」がキャッチフレーズで、社名の由来でもある。これまでの開拓地が小作制度によって地主の利益を生むだけという悪いしきたりをやめて、たとえ小地主であっても土地を与えられて自主独立の人間に成長すること、そのための基盤としての自由民権の思想と、キリスト教による聖野場にすることが坂本の理想であった。マイナス三〇度にもなることもある極寒の土地での開拓は大変なものであったにちがいない。

大正元年）。しかし昭和十五年地主の黒田四郎が死没した後継者がよき理解者であったことから小作人の意志を尊重してくれ、農場主と小作人組合の折衝の結果めでたく解決を見たのだった（昭和十七年）。坂本直寛が北光社の第一の目標とした「地主となつて自主独立の精神をもつこと」が実現したのは実に四十三年目のことであった。

坂本直寛は竜馬の姉千鶴の子。立志社創立と同時に入社、なかなかの自由民権家。明治十七年には県議にも当選。十八年には洗礼を受け、高知教会の最初のクリスチャンである。二十六年に県議の任期が終ると当時の政界に不信をもち足を洗う。以後は開拓事業による人間改革をはかろうとして北光社を創るために尽力した。北光社のリーダーは皆クリスチャンであった。この本は非売品、市の総務課に行けばもらえると思う、私の手元にも一冊ある。二月十二日（土）に北見支部の一行は来高した。伊藤八段以下十六名。迎える高知県支部は西込七段以下二十五名。対戦成績は高知の23勝9敗であった。ホテル佐渡で賑やかに交歓会をひらいた後高知からも必ず行くことを約束して別れた。

俳句

8月30日（水）大豊町「定福寺」吟

田所たねを

六体の地藏爽かに笑み給ふ

願ひ事まだ尽きぬ身に寺暑し

吉本伸秋

鐘一打殷々として峽の秋

御仏の御衣の木目涼しけれ

中内みち代

触れてみし仏足石の秋の冷

歌碑を読み秋草に触れゆく寺苑

小笠原さちを

寺を恋ふ花魁草か磴半ば

こぼれ萩こぼれて盛り一の磴

9月15日（金）澤村百草園

合田青幹

無月とは知りつゝ誰も空仰ぐ

玻璃越しに月の出を待つ我等かな

吉本伸秋

濁流の音なき大河無月かな

無患子の闇こんもりと雨月かな

中内みち代

凜と活く一壺は芒月の供華

備前焼一壺に溢る月の供華

小笠原さちを

白萩に一灯ともす句宿かな

水引草一書の筆致のびやか

県高齢者大会開く

山原さん記念講演

第十四回高知県高齢者大会が、十月二十一日高知市のソールで開催、県下各地より百六十名の参加を得て盛大な大会となりました。高退協から十五名参加し、古味忠男さんが司会役の一員として大会運営に尽力されました。

医療・介護など社会保障制度の充実・改善をめざしてとりくむことなどを提起した基調報告を満場一致で確認しました。その後、山原健二郎前衆議院議員の「輝いて生きる」と題しての記念講演があり、この百年のあゆみをふりかえり、幸徳秋水のことや関東大震災での朝鮮人虐殺などの汚点を明らかにし、そして戦後、教育委員や国会議員などでの山原先生自身の闘いが述べられ、最後に「高齢者よ、団結せよ」のことばで結びとされました。参加者は輝いた生きかたに感動し、お互いに輝いて生きるよう決意し合ったように感じました。

その後、介護保険に関する討論に移り、事例報告をもとに会場から多くの質問意見が出され、活発な討論となり、今後の課題として保険料・利用料軽減を求めて国への運動は勿論、市町村への働きかけなどが明らかにされました。最後に、大会アピールを採択して閉会しました。

会員の動向

今年の県展で、間 吉夫先生が書道の部で見事「特選」野島幸代先生、浜田隆史先生が写真の部で「入選」されました。お目出度うございます。

国松 勝先生が住所移転され、新住所は
高知市神田九六一三
TEL 0881

84318177

森岡幹雄先生がご子息のそばに移住されました。

65112412

神戸市西区竜が岡一丁目 十五十六